

A0704-01	ボイラーや加熱炉の炉内に可燃性ガスを流入させるな		
本文	ボイラーや加熱炉の失火時やスタートの際などに、炉内に可燃性ガスを流入させないこと		
リスクの種類	爆発	関連目次・章節	
理由(何故)	ボイラーや加熱炉において、炉内に可燃性ガスの漏れがあると、爆発の危険が常にある。		
方策	<p>1) ボイラーには失火時の燃料自動遮断弁を設置すること。燃料以外の排ガス等を吹き込んでいる場合にも、同じような緊急遮断弁を設置すること。</p> <p>2) ボイラーの起動前には一定時間通風し、可燃性ガスが炉内に残留していないことを確認の後、炉の点火を行うこと。</p> <p>3) 工事完了後の点検は、工事側および運転側の両者で確認し、ミスの撲滅を図ること。</p>		
事故例	<p>(1) 2000年7月、石油精製会社において、廃熱ボイラーの煙道に設置している誘引通風機が突然停止し、ボイラーが緊急停止したが、可燃性ガスが炉内に流入し、炉内で爆発した。廃熱ボイラーが緊急停止した際、廃熱ボイラーの上流装置内で可燃性ガスが生成し、これが廃熱ボイラー内に流入したことによる。</p> <p>(2) 2000年12月、化学工場で、ボイラーの火炎検出器が疑似火炎を検出し停止したため、修理を行った後、再度運転を開始した際、煙道爆発した。修理時に燃料の電磁弁にばねを組み込むのを忘れ、弁に隙間ができ、燃料漏れ、炉内に未燃ガスが滞留、爆発した。</p>		
法的参考事項			
備考	事故例出典 労務安全情報センター		